AfriMag

2023 vol.2

［あふりまぐ］

宮城アフリカ協会

特集

Innovation in Africa.

アフリカにおけるイノベーション

AFAMのホームページでは英語版もご覧いただけます。

AFAM
African Association of Miyagi

AfriMag
Vol. 2

目次

03 農業でつながる日本とガーナ
CONNECTING JAPAN AND GHANA THROUGH AGRICULTURE

04 アフリカにおけるイノベーション
INNOVATION IN AFRICA

06 マダガスカルの紹介
INTRODUCING MADAGASCAR

08 アフリカの世界遺産
AFRICA'S WORLD HERITTAGE

10 アフリカの物語
AFRICAN STORIES

12 マダガスカルの食文化
MADAGASCAR FOOD CULTURE

14 フェイス・ペインティング
FACE PAINTING

16 西アフリカでの「日本留学フェア」
"STUDY IN JAPAN FAIR" IN WEST AFRICA.

18 STORYLINE社 - アフリカ、ルワンダでの活動について
STORYLINE INC. - ACTIVITIES IN AFRICA「RWANDA」

農業でつながる日本とガーナ

佐久間 友里
『おはようガーナ基金元職員』

日本では、もっぱらチョコレートが連想されるガーナという国は、本初子午線と赤道が交差する地点から1番近い国です。

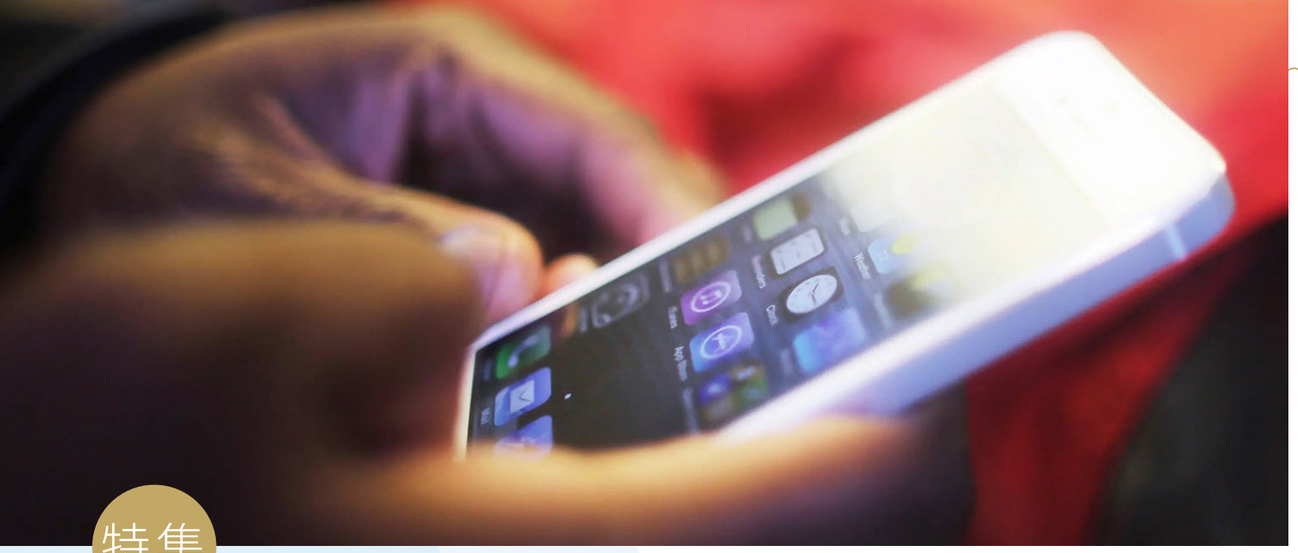
ホテル、マンション、ショッピングモールが立ち並ぶ首都アクラから、トロトロと呼ばれる乗合バスに乗って1〜2時間ほどゆられると、緑と赤土が広がる郊外に出て、だんだんと農村地域へと移っていきます。カカオ、マンゴー、パイナップル、米など、地域によりそれぞれ得意とする作物があります。

私は現地の日系NGO、「おはようガーナ基金」にて自社農場の運営に携わっていました。農場では、稲作、パイナップルやパパイヤなどを生産していました。また、日系の農場ということもあり、日本の専門家から得たノウハウをガーナの農家に伝える場であり、日本企業や大学関係者、学生などに度々視察に訪れていただき、熱帯地域での農業の生産現場を見たり、時にはインターンシップとして実際に体験したりする場でもありました。

ガーナは一年通して暖かい気候であるため、雨季と乾季でそれぞれ1回ずつ、年に2回、米の生産が行われます。当農場でも年2回作付けを行いましたが、雨季には激しい雨による土壌流出や稲の倒伏、乾季には深刻な水不足など、一筋縄でいった試しがありませんでした。それでも、生え揃った稲が風にそよぐ景色は美しく、無事収穫したお米を、次回への反省やお互いの苦労を讃えあいながらみんなで食べる時間はかけがえのないものでした。

パイナップルやパパイヤは、ガーナで流通量の多い果物です。これまで生食用としての消費が多かったフルーツですが、ガーナでは数年前から、スムージーやドライフルーツなど、加工による高付加価値化の取り組みが活発になっているようです。筆者も、加工設備をもつ事業者と提携し、自社のフルーツをドライフルーツに加工し、販売することができました。生のフルーツは個人での国外への持ち出しは厳しいので、加工品はお土産として大変重宝します。

課題が多く語られることの多いアフリカの農業ですが、厳しい気候や不十分なインフラの中でも、試行錯誤しながらより良い作物を作るために取り組んでいる農家がたくさんいます。これからも、アフリカと日本の技術と人材の交流が進み、双方の発展につながることを期待しています。

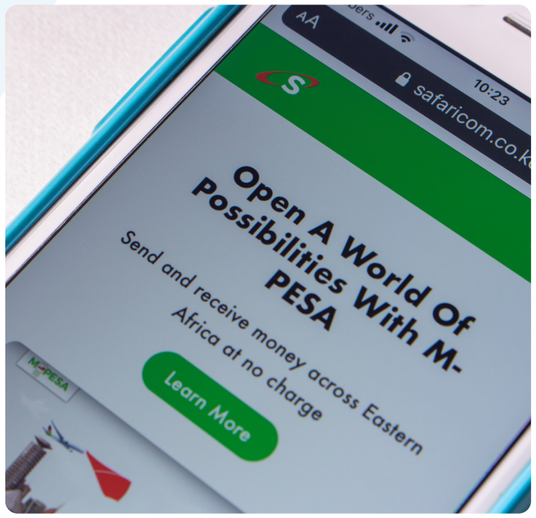


特集

アフリカにおけるイノベーション

革新的なテクノロジーの活用と聞いて、アフリカの国々が最初に思い浮かぶことはないかもしれません。しかし、アフリカは今日の多くのイノベーターの故郷であり、彼らのイノベーションは人々の生活を向上させています。南アフリカのジャーナリスト、トビー・シャプシャクは、「アフリカでは人々が本当の問題を解決している」と言っており、彼らは多くの場合、安価な携帯電話を使って問題解決しています。彼が言う本当の問題とは、支払いや食料品の購入など生活に関わる基本的なことができない問題で、その解決のため日本より革新が進んでいる分野も多くあります。

例えばM-PESAという決済システムは、銀行の口座やクレジットカードがなくても支払いができる便利なサービスで、毎日約2,500万ドルの支払いを処理しています。ケニアで始まった後、タンザニア、モザンビーク、コンゴ民主共和国、レソト、ガーナ、エジプト、アフガニスタン、南アフリカへ利用が拡大し、5,100万人の顧客が年間3,140億ドル以上の取引を行っています。従来の銀行が利用できない地域でも、個人が携帯電話を使って送金や受信、請求書の支払い、金融取引を行うことが可能になり、バンキングに革命をもたらしました。



アグリテック

農業技術の革新は、アフリカ大陸全体の農業の生産性を高める上で重要な役割を果たしています。Farmcrowdy（ナイジェリア）、Twiga Foods（ケニア）、Hello Tractor（ナイジェリア）などのサービス環境は、テクノロジーを活用して農作業や市場へのアクセス、消費者へ提供されるまでの流通の効率を向上させています。

オフグリッド太陽光発電

アフリカの多くの国では、農村地域の電力需要に対応するため、オフグリッド（電力会社の送電網＝グリッドに頼らず、電力を自給自足する）太陽光発電ソリューションを採用しています。M-KOPA Solarやd.lightのような企業は、手頃な価格で柔軟性のある家庭用太陽光発電システムを導入し、これまで安定した電源を利用できなかった家庭へ電力を供給しています。

フィンテック

金融テクノロジーはアフリカで著しい成長を遂げ、金融包摂（経済活動に必要な金融サービスをすべての人々が利用できるようにする取り組み）の課題に挑戦しています。いずれもナイジェリアにあるFlutterwave、Paystack、Pagaなどの新興企業が、革新的な決済ソリューションを提供することで安全なオンライン取引を促進し、金融サービスの利用を拡大しています。

人工知能（AI）

アフリカ全土のさまざまな分野で、AIの活用が進んでいます。例えば、ヘルスケア分野では病気の診断や早期発見にAIが活用され、農業分野ではAIを搭載したツールが農家へデータに基づいた知見を提供し、より良い作物管理を実現しています。

これらは、アフリカで起きている数多くの革新的な開発のほんの一例に過ぎません。アフリカ大陸は、独自の課題に取り組み世界のイノベーションに貢献するため、起業家精神、技術の進歩、創造的な解決策を育み続けているのです。

アフリカと国際機関の協力が増加しており、知識の交換や共同研究プロジェクトを可能にし、地域的な課題だけでなく、世界的な課題も解決する可能性を持っています。アフリカの知識資本が増加し続ける中、それは大陸のイノベーションブームの背後にある推進力となり、世界のイノベーションの景色においてますます重要な役割を果たしています。

写真: バオバブの並木道

マダガスカルの紹介

魔法の国『マダガスカル』

アフリカにある魔法の島国、マダガスカルへようこそ！アフリカの南東の沿岸沖に位置するこの美しい国は、地球上のどことも異なる場所です。野生の動植物、美しい景色、活気ある文化が独自に融合したマダガスカルは、探索を待っている実在のパラダイスです。マダガスカルは多様で息を飲むような景色が広がる国であり、島の自然美に驚くことでしょう。

巨大なバオバブの木が続くこの道は、夕日が沈む美しい光景と共に、まさに幻想的な場所です。また、マダガスカルには多くの自然公園やリゾートも点在しており、サファリやスキューバダイビングなどのアクティビティも楽しむことができます。この魔法の島国での素晴らしい冒険が待っています！ぜひ旅のご計画に組み込んでみてください！

Visit Madagascar

1 Tsingy de Bemaraha
ツィンギ・デ・ベマラハ

ユネスコの世界遺産に指定されているツィンギ・デ・ベマラハは、地質的に類を見ない奇観です。鋭い尖塔や深い峡谷に似ている、別世界のような石灰岩の地形が特徴です。訪れた人々は吊り橋を渡って公園を散策し、頂上からはあっと驚くようなパノラマビューを楽しむことができます。

2 Nosy Be
ノシ・ベ

この絵のように美しい島はマダガスカルの北西沿岸沖に位置し、旅行者に人気があります。白い砂浜、透明な海水、サンゴ礁を備えたノシ・ベは、シュノーケリング、ダイビング、ウォータースポーツを体験できる機会が数多くあります。

3 Andasibe-Mantadia National Park
アンダシベ・マンタディア国立公園

この人気のある国立公園は、驚くべき生物多様性で知られており、キツネザル（リマー）の自然な生息地を見るには最適な場所の一つです。この公園は、現存する最大のキツネザル種（リマー種）で独特の大きな鳴き声で鳴くことでも知られてるインドリも生息しています。

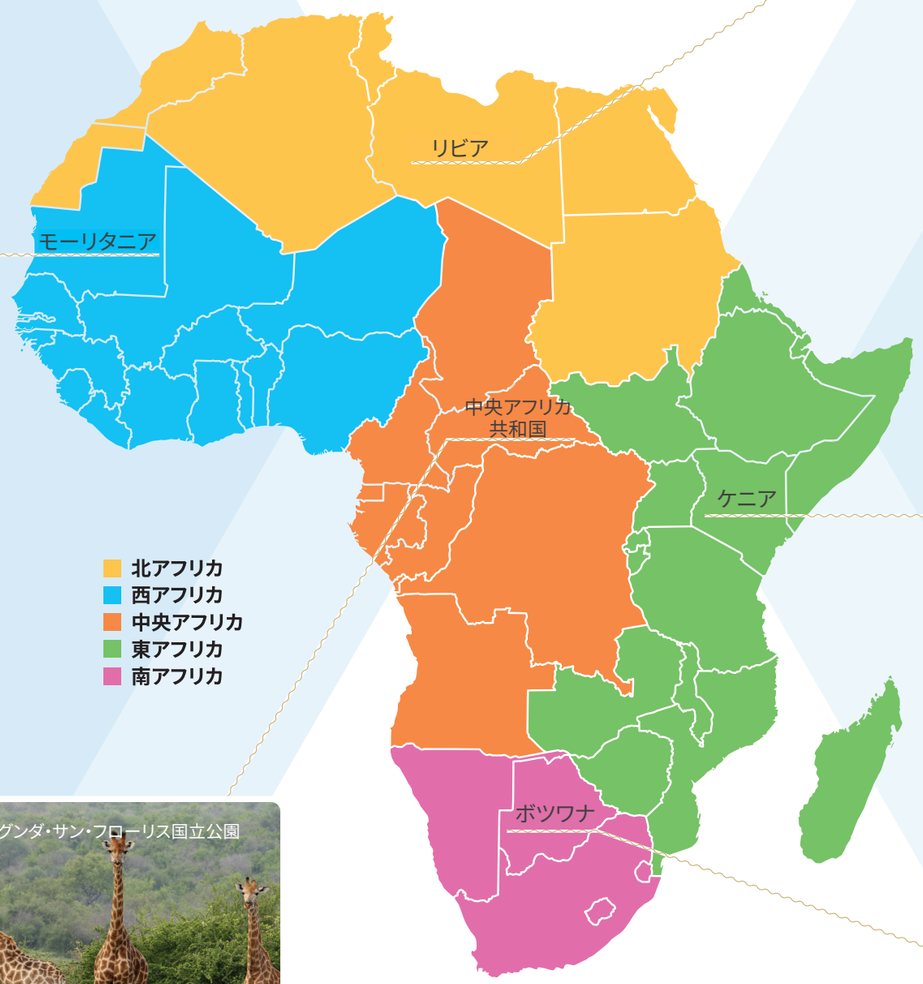
4 Isalo National Park
イサロ国立公園

印象的な砂岩の絶景で知られるイサロ国立公園には、深い峡谷、青々としたオアシス、ユニークな岩の形成物が混在しています。訪れた人々は峡谷をハイキングし、天然のプールでリラックスし、公園の多種多様な動植物を発見することができます。

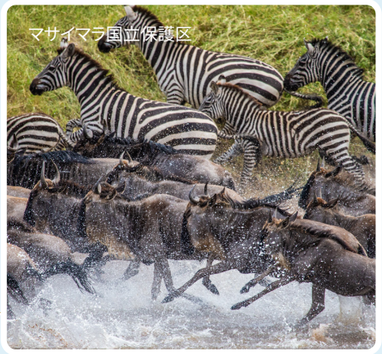
アフリカの世界遺産

アフリカ大陸は、美しい自然環境、太古の歴史、多様な文化遺産を保有することで知られています。世界遺産リストに登録されているアフリカの豊かな遺産は、そこを訪れる人々に魅力的な体験を提供してくれます。今回はその内の5つの遺産をご紹介します。

モーリタニア西岸にあるユネスコ世界遺産の**バン・ダルガン国立公園**は、多様な生態系が存在し、渡り鳥の保護区として重要な役割を果たしています。この公園内には、沿岸部と海洋の両方に生物の生息地があります。またここは、数百万羽の渡り鳥の飛行コース(アトランティック フライウェイ)の中継地点であり、繁殖地にもなっています。



世界で最大の面積を持つ**サハラ砂漠に点在するオアシス**は、乾燥地帯で生命を維持するために欠くことのできないものです。その中でも、リビアのフェザーン地方のオアシス都市には、オアシスを利用したウバリ人の居住地や灌漑(かんがい)システムがあり、砂漠の生態系や古代サハラ交易を理解する上できわめて貴重な手がかりとなっています。



ケニアの**マサイマラ国立保護区**は、アフリカの最も有名な野生動物保護区の一つです。そこいはおびただしい数の野生動物がおり、年に一度のヌーの大移動は有名です。その大自然が生み出す壮観さは、世界中から集まる観光客を惹きつけています。この保護区では、アフリカ野生動物のありのままの姿を目の当たりにすることができ、サバンナの広大な景色に魅了される貴重な機会になるでしょう。

中央アフリカ共和国の**マノヴォ-グンダ・サン・フローリス国立公園**は、広大な保護地域であり、多くの野生動物が生息手厚い保護活動が行われています。この公園には、ゾウ、ヒョウ、サイなど絶滅が危惧されている動物を含む実にさまざまなの動物が生息しており、その地域に生きる多様な生物の重要な保護区となっています。

ボツワナの**ツォディロ丘陵**は、独特の文化を持った神聖な場所です。広範囲に及ぶ岩絵群は「砂漠のルーブル美術館」とも称される遺跡です。この丘は、文字を持たないサン民族にとって神聖な場所とされてきました。その岩壁には彼らの古代の生活様式が描かれています。この地域の文化史を理解する上で貴重な場所となっています。

アフリカの民話

アフリカの民話は、アフリカという広大で多様な大陸を横断して、古代の知恵や文化遺産、想像力豊かな語りが世代から世代へと受け継がれてきた貴重な宝物です。これらの物語は、アフリカを故郷とする無数の文化と民族を反映し、伝統、信念、価値観を豊かに織りなしています。アフリカの民話は、アフリカ社会の歴史と知恵を何世紀にもわたって保存する上で、口承という形で中心的な役割を果たしてきました。

アフリカの民話の中心には、魅力的な英雄の物語、神話の生き物が登場し、全ての人々の心を打ち年齢を問わず楽しませながら、教育、共感させる道徳的な教訓があります。西アフリカのギリョウ(口承詩人)たちが、マリ帝国の伝説的な創始者であるスンジャタ・ケイタの壮大な冒険や、ガーナのアカン族のアナンシのクモの物語を語るように、アフリカの民話はしばしばその魅力的な物語と並行して深い道徳的なメッセージを伝えます。これらの物語は、アフリカの多様な文化を覗き見る窓としてだけでなく、愛、友情、勇気、そして善と悪の永遠の闘いといった普遍的な人間の経験を反映する鏡としても機能しています。

アフリカの民話には、子どもたちを楽しませる物語がたくさんあります。ここでは、アフリカ以外の子どもたちにも魅力的で楽しい、ガーナで人気のアフリカ民話**「アナンシと知恵の壺」**を紹介しましょう。

登場人物

ニャメ　…　西アフリカのアシャンティ人に伝わる宇宙の創造神。全知全能の天空の神

アナンシ　…　ニャメの息子で文化の英雄

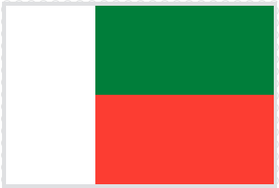
『アナンシと知恵の壺』

このお話でアナンシは、天空の神、ニャメが守る魔法の壺の中に、世界中の知恵が入っていると信じています。そして、アナンシはその知恵を手に入れようと旅に出ます。アナンシはニャメから壺を渡してもらうためにある計画を練ります。自分が一番賢い生き物であると、ニャメを説得するのです。アナンシは手始めに、さまざまな生き物を捕まえ、別々のヒョウタンに入れます。アナンシはクモに変装してニャメに近づき、自分が捕らえたすべての生き物の知恵を持っていると主張します。ニャメはそれを確かめるためにアナンシにクイズを出します。

ニャメがクイズを出すたびに、アナンシは生き物をひょうたんから解き放して巧みに答えます。アナンシがあまりにも上手に答えるので、ニャメはアナンシにごほうびとして知恵の壺を与えます。成功に喜んだアナンシは村に帰り、初めは知恵の壺を独り占めにしようと考えましたが、やがて自分の間違いに気づきます。世の中へ壺の知恵を分かち合い、皆がその力の恩恵を受けるようになるのが本当だと決意します。

アナンシと知恵の壺の物語は、知性と機知、そして皆のために知識を分かち合うことの大切さについて、重要な教訓を教えてくれます。そのいたずら好きな性格と、最後の社会全体の利益への悟りが相まって、アナンシはアフリカの民間伝承の中で愛され、不朽のキャラクターとなっています。

マダガスカルの食文化



ロマザバを作ってみましょう！

ロマザバは美味しいだけでなく、マダガスカル独時の風味が融合された料理です。
マダガスカルの伝統料理の真髄を備え、作ると楽しく心が温まる料理です。

マダガスカルで最も人気の高い料理はロマザバです。国民食と考えられ、マダガスカルの食文化において特別なものとなっています。ロマザバは美味しいお肉と緑色野菜を煮込んだもので、簡単に作ることができます。

材料4人分

サラダ油	大さじ2
一口サイズに切った牛ブロック	450g
一口サイズに切った豚ロース	1ブロック
一口サイズに切った鶏胸肉	1枚
400gカットトマト缶	1つ
チキンまたはビーフだしスープ	2カップ
玉ねぎ大	1/2個
皮を剥いてみじん切りにしたニンニク	5片
皮を剥いてみじん切りにした生姜	2個半
細かくきざんだセラーノチリ（唐辛子）	3個
刻んだカラシナ（グリーンマスタード）の葉（小松菜でも代用可能）	1束
塩コショウ　お好みで	

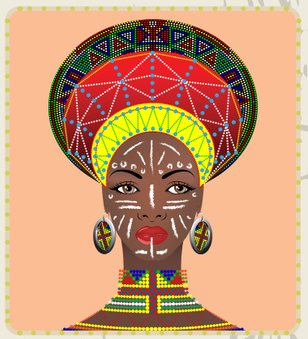
作り方

【Step 1】 保温性の高い鍋に油をひき、牛肉に全体的に焦げ目をつける。
【Step 2】 トマト缶、スープ、玉ねぎ、チリ、ニンニク、生姜を加え煮立たせる。
【Step 3】 鍋に蓋をして火力を弱め、約30分間煮込む。
【Step 4】 一口大に切った豚肉と鶏肉を加え、一度沸騰させてから火を弱め蓋をして10−15分煮込む。
【Step 5】 カラシナの葉を加える。（量が多いように思うが、萎むので大丈夫。）
【Step 6】 蓋をして更に10分煮込む。
【Step 7】 塩と胡椒で味付けをする。
【Step 8】 白いご飯の上にかけて召し上がれ。マダガスカルの辛みソース’サカイ’もあると完璧です！
（お好みのチリソースでも代用できます）

FACE PAINTING

アフリカには、芸術、音楽、ダンスを通じて表現される文化遺産に富んでいます。そのような芸術表現の一つとして、フェイスペインティングがあります。これは何世紀にもわたってアフリカ大陸全体で行われてきました。

フェイスペインティングは伝統的なボディアートの形式で、粘土、木炭、植物エキスなどの自然の顔料を用いて顔に装飾的なデザイン、シンボル、模様を描くことを指します。これは部族の記号、宗教的な儀式、文化祭など、様々な目的で使用されます。多くのアフリカの文化において、フェイスペインティングは伝統的な儀式や通過儀礼の重要な部分を担っています。例えば、南アフリカのコサ族は、若い男性の成人を象徴するものとして、入会儀式の際に白い粘土で顔や体を塗ります。



同様に、東アフリカのマサイ族は、顔や体に赤い赤鉄鉱と動物の脂肪の混合物を塗り、それは先祖とのつながりを感じ、邪悪な霊から身を守ると信じています。フェイスペインティングは、大陸全体の文化祭や式典においても人気のある表現形式です。例えば、ナイジェリアにて年一回開催されるドゥルバー祭りでは、自分たちの文化遺産に敬意を表し、先祖を称えるために人々は顔を塗り、伝統的な衣装を着用します。

近年、アフリカのフェイスペインティングは、西洋世界においてボディアートや自己表現の一形態として人気を得ています。多くの人々がアフリカのインスピレーションを受けたデザインやシンボルを彼ら自身のフェイスペインティングやボディアートに取り入れています。しかし、フェイスペインティングは多くのアフリカの地域社会にとって深い文化的・霊的な意義を持つものであり、使用されるデザインやシンボルの背景や意味を理解し尊重することが重要です。全体として、アフリカのフェイスペインティングは大陸の豊かな文化遺産のエネルギッシュでカラフルな表現です。これは伝統的なアート形式や文化的な実践を維持し、祝う重要性を力強く思い起こさせます。

世界的な影響力

アフリカのフェイスペインティングは、世界のアート、ファッション、エンターテインメントに大きな影響を与えています。その鮮やかな色彩、大胆なデザイン、文化的なシンボルは、写真、ファッションショー、劇場のパフォーマンス、ミュージックビデオなど、さまざまな現代アートに取り入れられています。アフリカにインスパイアされたフェイスペインティングは、国際的なフェスティバルやイベントで人気のトレンドとなり、大陸の文化的な豊かさと創造力を披露しています。

西アフリカでの「日本留学フェア」に参加して

黒岩　卓
東北大学文学研究科准教授

2023年2月中旬、セネガルのダカールとコートジボワールのアビジャンで開催された「日本留学フェア」に参加し、わたしが所属している東北大学を紹介してきました。この「日本留学フェア」は北海道大学が文部科学省から委託を受けて行っている「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の主催によるものです。

アフリカでは歴史的な経緯から英語やフランス語を公用語とする国が多く、今回わたしが訪問した二つの国ではフランス語が公用語となっています。日本に住むわたしたちにとって、フランス語は英語よりもなじみの薄い言語です。だから同じアフリカでもフランス語圏の国々は、他のアフリカの国々よりもいっそう縁遠いように感じられるのではないでしょうか（ちなみに、アフリカで英語やフランス語が使われるようになったのは、歴史的にみれば比較的最近のことです。実際には昔から用いられていたさまざまな言語があります）。

まず訪れたのはセネガルの首都であるダカールです。空港に到着したのは2月10日の深夜で、ホテルからの送迎タクシーで中心街に入っていったのですが、車窓から見えた立派なスタジアムが印象的でした。翌朝になると周辺のイスラム教の寺院からお祈りが聞こえてきます。ホテルから歩いて行ける距離にあるアフリカ高等経営学センター（CESAG）で「留学フェア」が開催されました。大ホールでのセッションではセネガル大使の挨拶、さまざまな機関の方による日本留学のための奨学金などの紹介、日本留学を経験された現地の方々のお話など、盛りだくさんの内容でした。ホールには極めて多くの学生が詰めかけてくださり、その後の個別のブースでもたくさんの学生さんたちが質問に来てくれました。

翌12日にはコートジボワールの事実上の首都であるアビジャンに移動しました。コートジボワールを訪れるのは三度目だったのですが、コロナのために訪問できなかった三年間のあいだの発展ぶりに目を見張りました。他の用事のために内陸部のブアケという町を訪れたのちアビジャンに戻り、コートジボワールの代表的な国立大学であるフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学で2月15日に行われた「留学フェア」に参加しました。全体セッションでお話をさせていただいた折、コートジボワールをまた訪れることができてとてもうれしいという思いをお伝えしたところ、会場の学生さんたちがとても喜んでくださったのが印象的でした。またわたしたちが日本から現地まで足をはこんで日本の大学を紹介したことを、現地の先生のお一人が高く評価してくださったときには、こちらの気持ちが伝わったようでとても嬉しかったです。

この二回の「留学フェア」への参加で強く感じたのは、理系・文系を問わず日本の大学に関心を持つ若い人たちがたくさんおられるということです。日本のアニメが世界中で愛されているということを知っている人も多いと思いますが、それはアフリカ大陸でも変わりません。実際に、日本のアニメを見て日本に興味を持ったという若者にはアフリカ諸国でもよく出会います。あまり一般には知られていないかもしれませんが、アフリカ諸国でも日本語や日本文化を熱心に学んでくださっている方々がたくさんおられるのです。アフリカ諸国の大学との交流を深めることで、日本語・日本文化を学びたいという学生さんたちの思いに、わたしが所属している東北大学がもっと応えられるようになればと考えています。

他方でそうしたアフリカ諸国の皆さんの思いに比べ、日本のわたしたちは現代アフリカの国々の文化について何を知っているでしょうか。わたし自身も含めて、現代アフリカの文化はまだ他の地域のそれに比べて日本ではなじみが薄いように思います。しかし日本や日本の大学が21世紀の世界の

なかで活躍していくためには、これからますます存在感を増すだろうアフリカの人たちの物の考えかたや価値観、文化を知ることがとても大事だと思います。またアフリカを視点として近現代の世界の歴史を眺めれば、わたしたちが親しんでいるものとは相当に異なるものが見えてくるでしょう。アフリカ諸国との文化的な交流を通じて、日本の学問や文化がこれまで以上に豊かになるのではないでしょうか。

アフリカの国々は色彩豊かなファッション、心躍る音楽、美味しい食べ物、多様な文化に満ちた、とても魅力的な場所だと思います。わたしはまだアフリカのことを学び始めたばかりですが、現地を何度か訪問させていただいて、またいつでも戻りたい場所になりました。これからも末永くアフリカの国々、またそこに住む人たちとお付き合いをさせていただければと考えています。

『**2023年度**、AfriMagの創刊号と第2号を発行するため、AFAMではクラウドファンディングを行いました。
スポンサーへの返礼品として、デカフェを含むルワンダ産のコーヒー豆を、ストーリーライン様からご提供いただきました。
ストーリーライン様は最新の技術を使ったアフリカとの取り組みを行っております。取り組みの一部をご紹介します。』

■会社概要
ストーリーライン株式会社
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢4-26-7
研究拠点
〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6

ストーリーライン株式会社
代表取締役　岩井　順子

ストーリーライン
アフリカでの取り組み

2023年1月に ルワンダ農業開発局（NAEB)へストーリーラインの事業・技術説明を行い、協力体制に関するミーティングを実施。NAEB、FDA、RDBなどのルワンダ政府機関の他、日本側ではJICA, 日本大使館（福島大使）も出席。

2023年4月にアメリカのポートランドで行われたSCA
(Specialty Coffee Association)EXPOのルワンダ生産国ブースに出展。

ルワンダのコーヒー精製を行うCoffee Washing Stationの風景。

ルワンダのコーヒー精製を行うCoffee Washing Stationの風景。

あなたの飲む一杯のコーヒーが海の向こうの誰かを支えています

STORYLINE

代表取締役『岩井 順子』

皆さん、デカフェコーヒーを飲んだことはありますか？
デカフェコーヒーとは、カフェインを除去したコーヒーのことです。健康意識の高まりに伴いカフェインを避ける方が増えており、デカフェコーヒーのニーズは年々高まっています。しかし一般に「デカフェコーヒーは不味い」という悪評も高いです。実はそれには2つの理由があります。まず、収穫されたコーヒーは乾燥生豆として輸出され、多くはカナダやドイツに運ばれてデカフェ加工されています。そのため先進国の加工コストが嵩み、輸送距離・時間が非常に長くなるため、新鮮でなくなるばかりか、CO2排出量も大きくなります。また、多くの事業者はコストと引き換えに原料の質を下げる傾向にあり、これでは美味しくなるはずがありません。
また技術面では、カフェイン除去にはいくつかの方法がありますが、いずれの方法もカフェインとともにコーヒーの旨味成分も同時に抜けてしまうため、香りや味が物足りないものになってしまいます。
ストーリーラインでは、今後も増大する健康志向の顧客にむけて、カフェインを気にせず美味しいコーヒーを飲んでいただきたいという思いで、上記の問題を解決しようとしています。まず流通の問題を解決するために、コーヒー生産国であるアフリカ・ルワンダにデカフェ工場を設立し、現地生産する計画です。東アフリカは非常に高品質なコーヒーが産出され、殊にルワンダはビジネス環境も整い、非常にポテンシャルの高い地であると思います。
そして当社の技術は「超臨界二酸化炭素抽出」という、水とCO2に圧力を加えカフェインのみを選択的に抽出する工法を採用し、東北大学とともに共同研究を行なっています。この技術をアフリカに移転し、生産国から世界へ美味しいデカフェコーヒーをお届けするのが当社のビジネスです。そしてこの技術によってルワンダの主要農業生産物であるコーヒーを高付加価値化し、第二次産業に変えること。これが最も重要な当社のミッションです。
近い将来、Made in Africaの美味しいデカフェを世界中のコーヒー愛好家が求めるようになる日を目指して、現地パートナーや国の機関とも連携して前進しています。

AFAM賛助会員募集中

AFAMは、宮城県や東北に住むアフリカ人と日本のコミュニティとの交流の活動を行っています。国ごとではなくアフリカすべての国を対象とした、ほかの地域にはない組織です。アフリカ開発に関する公開セミナーや、パフォーマンスや地域社会での奉仕活動を通じてアフリカの価値観や文化を促進するイベントや公開セミナーなどを通じて、東北の国際化を支援しています。東北の大学に在籍する学生や社会人のアフリカ出身者、約100人とネットワークを結んでいます。

AFAMは市民活動に参加し、自治体や団体と協力して、アフリカの価値観や文化に対する日本社会の理解を深め、東北の活動を支援しています。また、東北地方の大学に留学するアフリカ人留学生を歓迎し、彼らを支援しています。JICAなどの機関や地元企業と協力して、アフリカ開発に関する公開セミナーや留学生のためのスタディーツアーを開催しています。地方自治体や市役所・区役所が開催するイベントに積極的に参加しています。老人ホームを訪問し、アフリカの価値観を伝えるために歌やダンスを通じて高齢者との交流を行っています。是非私たちの活動をご支援ください。

賛助会ご加入希望者は、AFAMまでメール等でご連絡下さい。　『support.afam@afam-org.com 』

◎　賛助会員の区分と年会費

- 個人会員　　1口　3,000円
- 団体会員（企業などの法人、任意団体など）　　1口　10,000円

※　1口以上、何口でも結構です。

◎　賛助会員の特典

- 個人会員　　アフリカ現地で購入したビーズブレスレットなど。
- 団体会員　　アフリカ出身のAFAMメンバーが講師として、ご要望のテーマで出前授業。

SPONSORS

公益財団法人宮城県国際化協会
未来の東北博覧会記念国際交流基金助成金事業

みやぎ生協

株式会社カネダイ

ボーダレス株式会社

AFAM
African Association of Miyagi

本雑誌はダウンロード可
PDF版はこちら
afam-org.com/afrimag/